

2024年度の新入社員アンケートから

— 一定年までの勤続を見据えて就職先を決定 —

当研究所では、毎春、県内企業の新入社員を対象にアンケート調査を実施している。昨春の前回調査に続き、今年度も県内全6先の商工会議所にご協力いただき、同会議所が開催する新入社員講習会に参加した方々から回答を得ることができた。

調査結果から、回答者の多くは、企業イメージの良さや仕事内容との相性を重視して就職先を選び、定年までを見据えた勤続を希望していることが分かった。一方で、いつまで働くかを決めていない割合も高く、長期勤続へのこだわりが薄い面も見取れる。

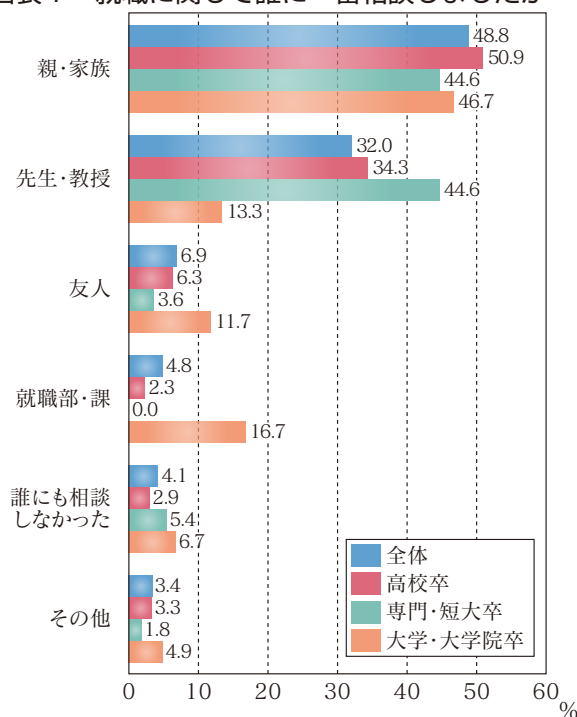
1 アンケート結果

Q1 就職に関して誰に一番相談しましたか

一番相談した相手として、全体では、「親・家族」(48.8%)が前回調査(49.7%)を0.9ポイント下回ったものの、回答割合が最も高くなった(図表1)。

最終学歴別に各項目をみると、「親・家族」の回答割合は、高校卒(50.9%)で最も高くなり、大学・大学院卒(46.7%)と専門・短大卒(44.6%)でも4割を超えた。「先生・教授」は、専門・短大卒(44.6%)と高校卒(34.3%)が大学・大学院卒(13.3%)の2倍以上となった。また、大学・大学院卒では、「就職部・課」(16.7%)と「友人」(11.7%)が二桁台となり、他学歴を大きく上回った。

図表1 就職に関して誰に一番相談しましたか



調査要領

- 調査目的 新入社員の就職に関する意識を把握する。
- 調査期間 2024年3月14日～4月17日
- 調査方法 新入社員講習会における無記名アンケート方式
- 回答者 292名

回答者の内訳

地域別	大館市	能代市	秋田市	大仙市	横手市	湯沢市	合計
人数(人)	47	49	90	34	42	30	292
構成比(%)	16.1	16.8	30.8	11.6	14.4	10.3	100.0

最終学歴別	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
人数(人)	175	56	61	292
構成比(%)	59.9	19.2	20.9	100.0

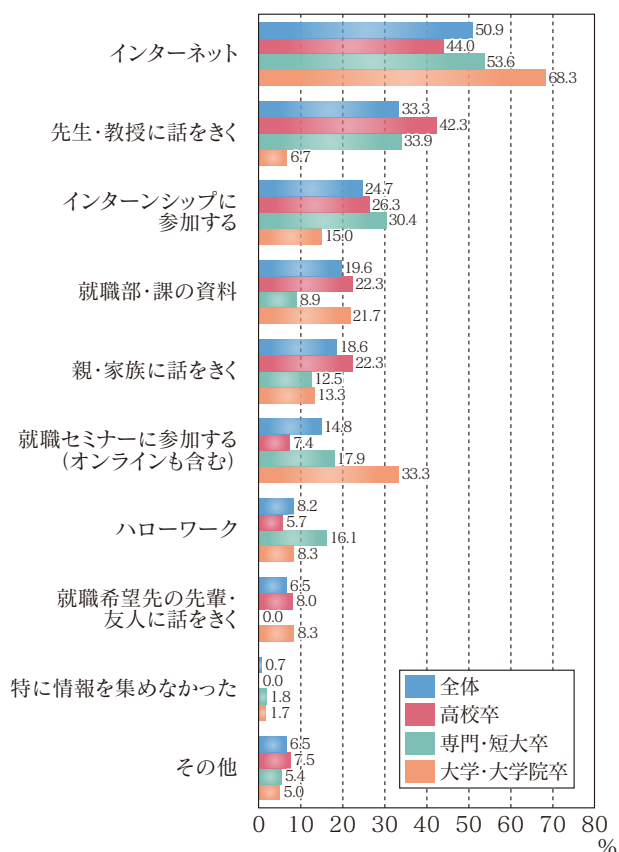


Q2 効果的だった情報収集方法は何ですか (2項目複数回答)

回答割合が高い順から、「インターネット」(50.9%)、「先生・教授に話をきく」(33.3%)、「インターンシップに参加する」(24.7%)となった(図表2)。「インターネット」は、本項目を設けた2002年度以降最も高い割合となった前回調査(53.1%)を2.2ポイント下回ったものの、5割台を維持した。

最終学歴別では、「インターネット」は、高校卒(44.0%)、専門・短大卒(53.6%)、大学・大学院卒(68.3%)と、最終学歴が上がるにつれて回答割合が上昇した。「就職セミナーに参加する(オンラインも含む)」も同様に、大学・大学院卒(33.3%)が最も高くなった。対照的に、「先生・教授に話をきく」は、高校卒(42.3%)、専門・短大卒(33.9%)、大学・大学院卒(6.7%)となり、学歴が上がるにつれて割合は低下した。

図表2 効果的だった情報収集方法は(2項目複数回答)



Q3 就職活動で利用した機関やイベント

全体では、県と秋田労働局などが主催する「秋田県合同就職説明会・面接会」(22.4%)、「ハローワーク」(20.7%)の利用割合がともに2割を超え、「人材ビジネス業大手主催の会社説明会・面接会」(13.7%)、「あきた就職活動支援センター」(4.6%)を上回った(図表3)。

上記機関・イベントを「オンラインでのみ」または「対面、オンラインどちらも」利用した回答者81名のうち、オンライン利用によるメリットを得た割合は81.5%にのぼった(図表4)。

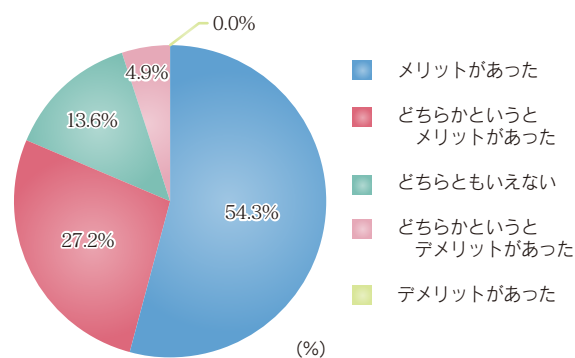
具体的なメリットの内容としては、回答割合が高い順から、「交通費や宿泊費を節約できた」(38.5%)、「学業と就職活動を両立しやすかった」(33.8%)、「遠方にある企業にも応募しやすかった」(32.3%)となった(図表5)。

図表3 就職に関する機関やイベントの利用割合

(単位：%)

秋田県合同就職説明会・面接会	22.4
ハローワーク	20.7
人材ビジネス業大手主催の会社説明会・面接会	13.7
あきた就職活動支援センター	4.6

図表4 オンライン利用による影響



図表5 オンライン利用による具体的なメリットは(2項目複数回答)

(単位：%)

交通費や宿泊費を節約できた	38.5
学業と就職活動を両立しやすかった	33.8
遠方にある企業にも応募しやすかった	32.3
1日に複数の企業と面接できた	21.5
緊張せずリラックスして臨めた	18.5
面接の対策に取り組みやすかった	16.9

(注) いずれかの機関やイベントをオンラインにより利用した経験があり、且つ「メリットがあった」、「どちらかというメリットがあった」とした回答者66名

Q4 県外での就職を希望したことがありますか

県外就職を希望したことがある割合は、全体の45.5%となった(図表6)。前回調査(44.8%)から0.7ポイント上昇したものの、2017年度以降は5割を下回る水準が続いている。

最終学歴別では、高校卒(34.7%)、専門・短大卒(58.9%)、大学・大学院卒(63.9%)と、最終学歴が上がるにつれて回答割合は上昇した。

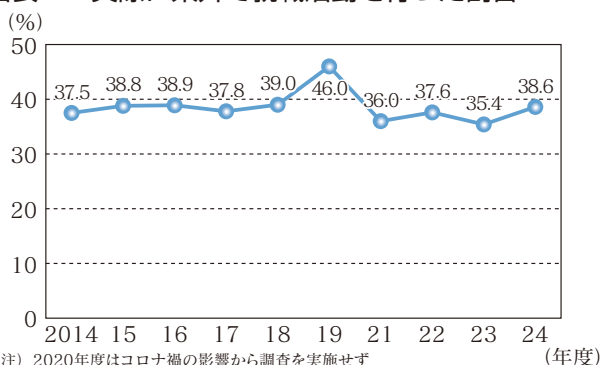
県外就職を希望したことの回答者132名のうち、実際に県外で就職活動を行った割合は38.6%となった(図表7)。過去10回の調査では最も低くなった前回調査(35.4%)と比べて3.2ポイント上昇したものの、引き続き3割台で推移した。

また、県外での就職を希望した理由では、「都会での生活を体験してみたかった」(45.8%)が、他項目の2倍以上となった(図表8)。

図表6 県外での就職を希望したことがありますか
(単位：%)

	ある	ない	覚えていない
全体	45.5	50.3	4.1
高校卒	34.7	60.1	5.2
専門・短大卒	58.9	37.5	3.6
大学・大学院卒	63.9	34.4	1.6

図表7 実際に県外で就職活動を行った割合



図表8 県外での就職を希望した理由

(単位：%)

都会での生活を体験してみたかった	45.8
地元や親元を離れて生活してみたかった	22.1
地元よりも条件のよい勤め先があった	16.0
地元希望職種の勤め先がなかった	8.4
その他	7.6

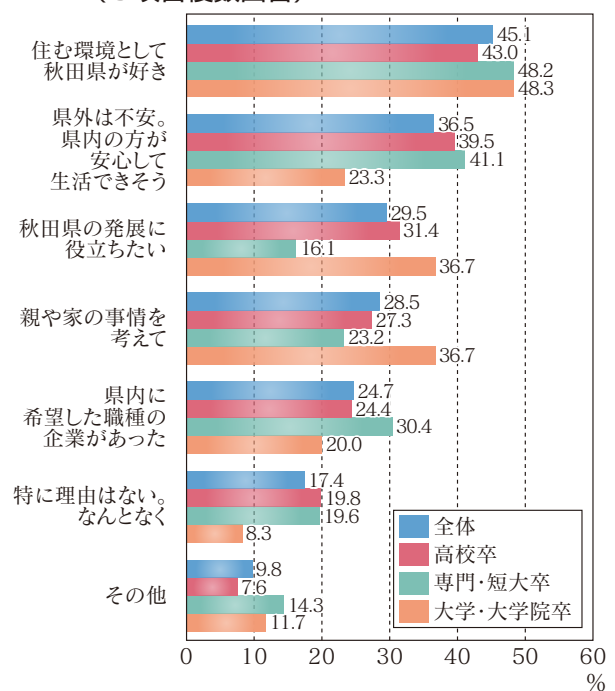
Q5 県内での就職を決めた理由は何ですか (3項目複数回答)

全体では、「住む環境として秋田県が好き」(45.1%)に最も多くの回答が集まった(図表9)。

「住む環境として秋田県が好き」は、大学・大学院卒(48.3%)、専門・短大卒(48.2%)、高校卒(43.0%)となり、いずれの最終学歴でも4割台となった。

地域別では、「住む環境として秋田県が好き」は湯沢市(53.3%)と秋田市(51.1%)で5割を超え、「県外は不安。県内の方が安心して生活できそう」は大館市(42.6%)でのみ4割を超えた(図表10)。「秋田県の実現に役立ちたい」は秋田市(37.5%)で他地域を上回った。

図表9 県内での就職を決めた理由は何ですか
(3項目複数回答)



図表10 上位3項目で回答の割合が高い開催地

住む環境として秋田県が好き	湯沢市	53.3%
	秋田市	51.1%
県外は不安。県内の方が安心	大館市	42.6%
秋田県の実現に役立ちたい	秋田市	37.5%



Q6 就職先を選んだ理由は何ですか

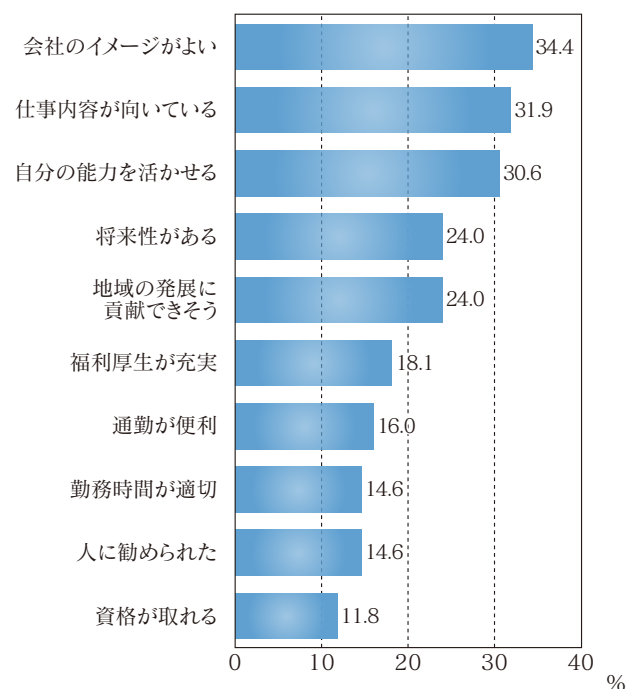
(3項目複数回答)

全体では、回答割合が高い順から、「会社のイメージがよい」(34.4%)、「仕事内容が向いている」(31.9%)、「自分の能力を活かせる」(30.6%)が3割を超えた(図表11)。

最終学歴別では、高校卒で「会社のイメージがよい」(35.1%)、専門・短大卒で「自分の能力を活かせる」(46.4%)、大学・大学院卒で「地域の発展に貢献できそう」(47.5%)がそれぞれ最も高い割合となった(図表12)。

地域別では、「会社のイメージがよい」は横手市(40.5%)と大仙市(39.4%)、「仕事内容が向いている」は大館市(44.7%)、「自分の能力を活かせる」は秋田市(38.6%)と大館市(36.2%)で他地域を上回った(図表13)。

図表11 就職先を選んだ理由は何ですか
(3項目複数回答)



図表12 学歴別の就職先を選んだ理由第1位

高校卒	会社のイメージがよい	35.1%
専門・短大卒	自分の能力を活かせる	46.4%
大学・大学院卒	地域の発展に貢献できそう	47.5%

図表13 上位3項目で回答の割合が高い開催地

会社のイメージがよい	横手市	40.5%
	大仙市	39.4%
仕事内容が向いている	大館市	44.7%
自分の能力を活かせる	秋田市	38.6%
	大館市	36.2%

Q7 インターンシップの経験はありますか

インターンシップ経験がある割合は、前回調査(68.9%)を3.3ポイント上回り、72.2%となった。2021年度調査(78.0%)以来3年ぶりに7割台に回復し、コロナ禍前の傾向に戻る動きがみられた(図表14)。

最終学歴別の経験割合は、高校卒(79.7%)で最も高く、最も低い大学・大学院卒(55.0%)でも5割を超えた。地域別では、大館市(85.1%)と横手市(80.5%)が他地域を上回った。

また、インターンシップ経験者208名のうち、インターンシップ先に就職した割合は46.2%となり、前回調査(41.7%)から4.5ポイント上昇した。最終学歴別では、専門・短大卒(52.6%)と高校卒(50.4%)が大学・大学院卒(21.2%)の2倍以上となった。地域別にみると、大館市(65.0%)と能代市(51.5%)で5割を超えた。

図表14 インターンシップの経験はありますか

(単位: %)

	インターンシップの経験がある	インターンシップ先に就職した
全体	72.2	46.2
高校卒	79.7	50.4
専門・短大卒	67.9	52.6
大学・大学院卒	55.0	21.2
秋田市	60.2	32.1
大館市	85.1	65.0
能代市	68.8	51.5
大仙市	79.4	44.4
横手市	80.5	42.4
湯沢市	73.3	45.5

Q8 現在の勤め先でいつまで働きたいですか

全体では、「定年まで」(38.1%)と「分からない」(31.1%)が3割台となった(図表15)。

前回調査と比べて、現在の勤め先で定年までの勤続を希望する“定年派”は0.5ポイント、「条件や状況次第では転職する」(17.6%)と「技能習得や業務経験が十分になれば転職する」(3.5%)を合わせた“転職派”(21.1%)は1.4ポイント、それぞれ下回った(図表16)。他方、「いやな事があったら辞めたい」(4.5%)は、前回調査(2.1%)を2.4ポイント上回り、低水準ながらも本項目を設けた2000年度以降最も高くなった。

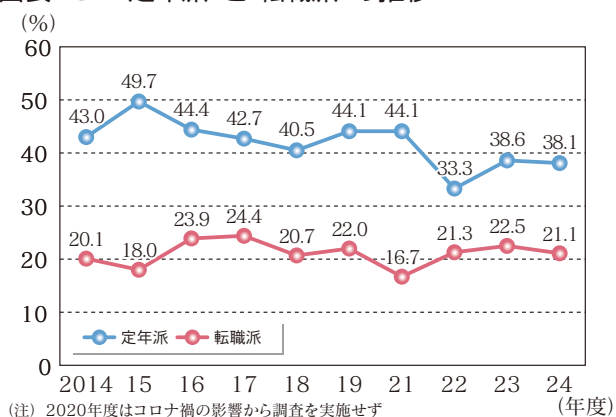
高校卒では“定年派”(41.3%)のみが4割を超えた。専門・短大卒では「分からない」(33.9%)と“転職派”(32.1%)が同じ3割台となった。大学・大学院卒では、“定年派”(39.3%)が“転職派”(34.4%)を上回り最も高くなった。

図表15 現在の勤め先でいつまで働きたいですか

(単位：%)

	定年まで	転職希望			将来は独立希望	いやな事があったら辞めたい	結婚・子どもの誕生を機に退職する	分からない	その他
		条件や状況次第では転職する	技能習得や業務経験が十分になれば転職する						
全体	38.1	21.1	17.6	3.5	3.5	4.5	1.0	31.1	0.7
高校卒	41.3	12.8	9.9	2.9	4.1	5.2	1.7	33.7	1.2
専門・短大卒	26.8	32.1	25.0	7.1	5.4	1.8	0.0	33.9	0.0
大学・大学院卒	39.3	34.4	32.8	1.6	0.0	4.9	0.0	21.3	0.0

図表16 “定年派”と“転職派”の推移



2 まとめ

2024年度の新入社員アンケートでは、就職先で定年までの勤続を希望する回答割合が最も高くなり、就職先を選定した理由の上位には企業イメージの良さ、仕事内容との相性が挙がった。回答者は、安心して長く働き続けられる環境を求めているようだ。

一方で、いつまで働くか分からない回答者も多く、長期勤続へのこだわりが薄い面も見取れる。

人手不足が深刻化するなか、新入社員を迎え入れた企業では、職場定着に向けた取組みが求められよう。活発なコミュニケーションを通して相互理解を深めたうえで、働きやすい環境の整備、やりがいの創出、自己成長の支援などを推進し、新入社員のエンゲージメントを高めて離職防止につなげることを期待したい。

(相沢 陽子)

